

令和3年度
 劇場・音楽堂等機能強化推進事業
 (地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)
 成果報告書

団 体 名	公益財団法人 調布市文化・コミュニティ振興財団	
施 設 名	調布市せんがわ劇場	
助 成 対 象 活 動 名	人材養成事業	
内定額(総額)	1,108	(千円)
公 演 事 業	0	(千円)
人材養成事業	1,108	(千円)
普及啓発事業	0	(千円)

(2) 令和3年度実施事業一覧【人材養成事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	第11回せんがわ劇場演劇コンクール	令和3年5月29日、 令和3年5月30日	出演（ファイナリスト団体）： 抗原劇場、ムニ、ほろびて、劇団灰 ホトラ、オパンポン創造社 専門審査員：銀粉蝶、多田淳之介、 西尾佳織、ムーチョ村松 企画監修：徳永京子 グランプリ：ほろびて 市民審査員賞：オパンポン創造社 劇作家賞：細川洋平（ほろびて） 演出家賞：宮崎玲奈（ムニ） 俳優賞：吉増裕士（ほろびて）	目標値	一般鑑賞者：180人（座席数30席×6ステージ）、 市民審査員：16人（募集定員16人）
		せんがわ劇場 ホール		実績値	一般鑑賞者：95人（座席数19席×5ステージ）、 市民審査員：10人（募集定員10人）、 ライブ配信視聴延べ615人※

2	せんがわピアニストグローイングアッププログラム	せんがわピアノオーディション 令和3年8月26日、 令和3年8月29日	審査員：高橋多佳子、近藤嘉宏、有森博、下田幸二、浜野与志男 最優秀賞：辰野翼 優秀賞：齋藤陽花、藤村瑛亮 市民審査員賞：山口香菜子 高橋多佳子賞：辰野翼 有森博賞：黒澤優芽 近藤嘉宏賞：坂原堇礼 下田幸二賞：山口香菜子 浜野与志男賞：津野絢音	目標値	オーディション応募者：25人、一般観覧：35人（延べ）、市民審査員：5人 受賞コンサート入場者：50人×2公演
		せんがわピアノオーディション受賞公演 令和4年2月19日、 令和4年2月20日		せんがわ劇場 ホール	実績値

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）・事業番号2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）について</p> <p>当該事業は、組織のミッションのうち「豊かな人間性を育む芸術・文化の推進」、「地域コミュニティの活性化と文化プラットフォームの形成」を達成するため、舞台芸術を通じて次世代の舞台芸術活動者を豊かに育むことを最終的なゴールに設定して事業を計画した。</p> <p>ゴールに到達するための目標を2つ設け、4つの指標を設定し各指標の達成を目指して事業を実施した。</p> <p>事業番号1・2の両事業とも全国から参加者を募っている。審査員について各分野において評価の高い人物や注目を集めている人材を起用し、ミッション達成に向けた質の高いコンペティションとなっている。</p> <p>また、養成する人材像を「地域で活躍できるアーティスト」に定め、当該事業をきっかけに舞台芸術活動者が劇場の事業運営に携わる仕組みの整備（人材養成／事業番号1）や、受賞公演に向けた選曲アドバイスやサウンドメディアを活用したメディアトレーニングを行い（人材養成／事業番号2）、ミッション達成に資する事業を展開している。</p> <p>以上のことから、社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、ゴール達成のために事業を実施することができたと考える。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）・事業番号2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）について</p> <p>舞台芸術の水準を高めていくためには、ひとつには舞台での実践を通じて公演の質を上げていくことが挙げられる。また、演劇分野においては舞台芸術活動者の活動内容が多様化し、実演を劇場に依らない活動も増えている。その中で、せんがわ劇場では地域の公共劇場として舞台芸術活動者の活動機会を提供する（人材養成／事業番号1／コンクールにおける作品発表及び翌年度のホール利用権の贈呈、人材養成／事業番号2／オーディションでの演奏機会及び受賞公演・他音楽事業への出演）とともに、専門家から直接助言を得られる機会（人材養成／事業番号1／表彰式での講評、人材養成／事業番号2／オーディション時の選考委員との質疑応答）を提供することで優れた人材を育成し、舞台芸術の水準向上に資する事業を実施できたと考えている。</p> <p>2000年代以降、国内の実演芸術の鑑賞者は徐々に減少と固定化が進んでいる。左記の傾向を表象するように、地域では催し物の鑑賞機会に必要なものとして「親しみやすさ」（「地域に縁のある出演者」や「わかりやすい解説」）を多くの市民が挙げている。その中で、舞台芸術活動者と一般市民との直接対話の機会（人材養成／事業番号1／アフターディスカッション）を設けたほか、地域に向けた若手演奏家の紹介（人材養成／事業番号2／サウンドメディア等への出演）を行った。これらを通して舞台芸術に関する市民の理解を深め、長期的には舞台芸術活動者の活動域を広げるとともに地域の文化芸術環境を共につくる市民の育成を併せて行った。</p> <p>以上のことから、文化的・社会的意義が継続的にあり、公共的価値を有する事業を実施できたと考えている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成したか。

人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）・事業番号2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）について

当該事業は、組織のミッションのうち「豊かな人間性を育む芸術・文化の推進」、「地域コミュニティの活性化と文化プラットフォームの形成」を達成するため、舞台芸術を通じて次世代の舞台芸術活動者を豊かに育むことを最終的なゴールに設定して事業を計画した。ゴールに到達するための目標を2つ設け、4つの指標を設定し各指標の達成を目指して事業を実施した。

設定した指標及び目標値と、実績値は以下の通り。

【目標1】高い競争性があり、参加者の成長のきっかけとなる

指標① 来場者・市民審査員の満足度

※満足度の高さを、高いレベルでの実演によるものととらえ、競争性の代理変数に設定した

(来場者・市民審査員アンケートの設問「1. 大変満足 2. 満足 3. あまり満足していない 4. 全く満足していない」における「満足」以上の回答者の割合)

[目標値] 90%以上 [実績値] 90.1% (事業番号1) 90.9% (事業番号2)

指標② 参加者の成長の実感度

(参加者アンケートの設問「今回の事業は成長のきっかけとなりましたか？」で目標値以上の「きっかけとなった」の回答を得る)

[目標値] 85%以上 [実績値] 100% (事業番号1) 100% (事業番号2)

【目標2】地域社会で活躍できる芸術家を養成する

指標③ DELメンバー登録者数を42人に増やす(事業番号1)

[目標値] 42人(現状値38人) [実績値] 41人

指標④ 受賞公演の来場者に「今後も引き続き応援したい」と思ってもらう(事業番号2)

(受賞公演の来場者アンケートの設問「今後も引き続き応援したいと思いますか」で目標値以上の「はい」の回答を得る)

[目標値] 75%以上 [実績値] 78.4%

目標1について、設定した指標①②とも目標値以上を達成した。しかしながら、コンクールやオーディションというフォーマットである限り、多くの場合「応募件数」は質を担保するものであり、外部への説明に向けた重要な指標のひとつとして事業実施に際しては意識すべき数値であると考え。次回以降の実施には、成果指標に「応募件数」を加え、競争性を多面的に測定することを検討している。

目標2について、設定した指標③の目標値達成には至らなかった。当該指標の未達成については検証を行い、事業番号1に関して実施内容について改善の必要があると考える。

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）・事業番号2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）について

当該事業は、施設の利用時間制限による開催時間の短縮や入場定員の制限（人材養成／事業番号1・2）、オンラインと対面のハイブリット実施（人材養成／事業番号1）等、制作面において即応的な対処が求められる中でも適切に実施することができたと考える。

また、当該事業は他ホールで実施されている類似事業（コンクール、オーディション）の開催日程を把握したうえで、日程が重複しないよう留意しており、適切な期間で事業を実施することができたと考えている。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）・事業番号2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）について

当該事業の事業費執行状況は、要望比（要望時／決算時）で約94%であるが、支出区分毎の執行状況では宣伝費が要望時と大きく乖離している。左記の乖離はコロナ禍の影響を受け、社会的状況や座席制限等の状況に鑑みて事業宣伝に関する計画を更新したためであり、不可避な社会状況に応じた適切な対応であったと認識している。

(4) 創造性

自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）・事業番号2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）について

当該事業（人材養成／事業番号1・2）について、審査員等に著名な人材を起用している。高い専門性の知見から審査・選考を行うことで、地域文化拠点としての機能を発揮することができていると考える。

（事業番号1）専門審査員／銀粉蝶、多田淳之介、西尾佳織、ムーチョ村松、徳永京子

（事業番号2）選考委員／高橋多佳子（選考委員長）、有森 博、近藤嘉宏、下田幸二、浜野与志男

人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）では、演劇外部アドバイザーの徳永京子が企画監修として運営に携わる他、せんがわ劇場演劇ディレクターを含めた当該事業の過去参加者が事業の運営に携わっている。専門審査員の選定については、徳永の監修により質が高く、かつ審査に際してバランスがとれた人選が実現している。

また、事業の運営を当該事業の過去の参加者が担うことで、同じ舞台芸術活動者として出演団体と劇場・舞台スタッフとの橋渡し役となっている。過去参加者が当該事業の運営に携わっているように、せんがわ劇場では当該事業を舞台芸術活動者の育成支援の出発点と位置付け、演劇人材が専門的スキルを地域に還元する仕組みを確立している。

人材養成／事業番号2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）では、ピアニスト高橋多佳子が総合プロデュースと選考委員長を務めている。高橋はコンサート活動を行いながら全国の小中学生を対象としたアウトリーチ活動等の普及活動にも積極的に参加しており、当該事業が目指す養成人材像「技術力＋人柄・コミュニケーション能力を備えた演奏者」を体現する演奏者であるとともに当該事業のプロデュース及びオーディションの選考に最適な人物と言える。

上記のとおりせんがわ劇場が有する文化資源を活用して事業を実施し、その結果が設定した目標・指標の達成にも現れていることから（(2) 効率性の頁を参照）、当該事業が地域の文化拠点としての機能を発揮する事業であったと考える。

自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

人材養成／事業番号 1（第 11 回せんがわ劇場演劇コンクール）について

人材養成／事業番号 1（第 11 回せんがわ劇場演劇コンクール）について、せんがわ劇場が所在する調布市では「演劇・ミュージカル」に関する関心が高い。当該事業の本選では、市民審査員・一般観覧を募り、若手舞台芸術活動者の多彩な演劇作品の鑑賞機会を市民に提供した。

また、表彰式後には参加団体・専門審査員・市民審査員によるアフターディスカッションを実施し、三者による忌憚のない意見交換を通して、演劇に関する知識や理解の深化を図ることで地域の実演芸術の振興につながっている。当該事業は若手舞台芸術活動者の成長のきっかけとして専門審査員からの講評を丁寧に行うとともに、アフターディスカッションでは専門家と一般市民の演劇に関する理解の溝を埋め、相互の理解を深めることを企図している。

参加した市民審査員からは「アフターディスカッションとても楽しかったです。作品の解像度が上がるので今後もあった方がよいです」「専門審査員のいろんな評価や作者の意図をより詳しく知ることができる。これからも続けるべきですね」といった好意的な意見が集まり、アフターディスカッションが地域の文化芸術の発展につながったと考えている。

人材養成／事業番号 2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）について

人材養成／事業番号 2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）について、せんがわ劇場が所在する調布市仙川地域には、多くの芸術家を輩出する桐朋学園大学及び桐朋学園芸術短期大学が所在し、かねてより表現者を応援する土壤がある。

当該事業は、上述の特性を持った地域の公共劇場として、地域のニーズに対応し、新たな才能を地域から発信している事業だと考える。事実、オーディション観覧希望者の 9 割以上が当財団広報紙やチラシからの参加申込みであり、約 70%が調布市内からの参加で、且つせんがわ劇場周辺地域からの申込者が最も多かった。受賞公演のチケット購入者についても、購入者に占める市民の割合は 70%を超えており、これは他の音楽事業と比較しても高い結果である。

以上のように、当該事業は地域の特性・ニーズに合致する事業であり、地域に縁のある演奏家を生み、応援するサイクルを生み出すことで地域の文化芸術の発展に寄与していると考えます。

(5) 持続性

自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

事業運営について、コンクールやオーディション等の事業は募集・予備（書類）審査・実演審査と複数の段階を経るため、事業の立ち上げから開催に至る期間が長期に及び、年間を通じて何らかの事業活動を行っている。当該事業（人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）、人材養成／事業番号2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム））でも前年度中から当該年度実施事業の参加募集等を行っており、例年、当該年度終了後すぐに翌年度事業が立ち上がっている。そのため、せんがわ劇場では事業の速やかな振り返りと次回以降に向けた効果的な引継ぎのため事業の振り返りにKPT分析等のフレームワークを活用した事業の振り返り及び業務改善を実施している。

人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）について

人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）については、本選終了後、劇場と運営スタッフによる振り返り会を実施し、定量的指標も参考にしながら事業の総括を行い、次回に向けた改善点の洗い出し等を行っている。

また、当劇場では人材養成／事業番号1（第11回せんがわ劇場演劇コンクール）を本事業終了後もせんがわ劇場の演劇事業に関わることができる「きっかけの事業」として位置付けており、事業を契機に劇場の演劇事業に携わるサイクルを構築してきた。しかしながら、目標2（地域社会で活躍できる芸術家を養成する）の指標（DEL新規登録者数）に関して目標値以上を達成できなかったことを踏まえ、阻害要因の洗い出しや事業フレームの見直しを行い、上記サイクルについての改善を図っている。

人材養成／事業番号2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）について

人材養成／事業番号2（せんがわピアニストグローイングアッププログラム）については、オーディション終了後に総合プロデューサーの高橋多佳子らと劇場スタッフで振り返りを行い、次回以降の事業運営に向けて総括を行っている。

また、本事業では最優秀賞等受賞者に翌年度以降の音楽事業への継続的な出演を依頼するほか、事業参加者の活躍を継続的にキャッチアップし、他音楽事業の出演者としての活用につなげている。